

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年8月29日

予報期間：8月31日～9月30日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高くなる所が多いでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

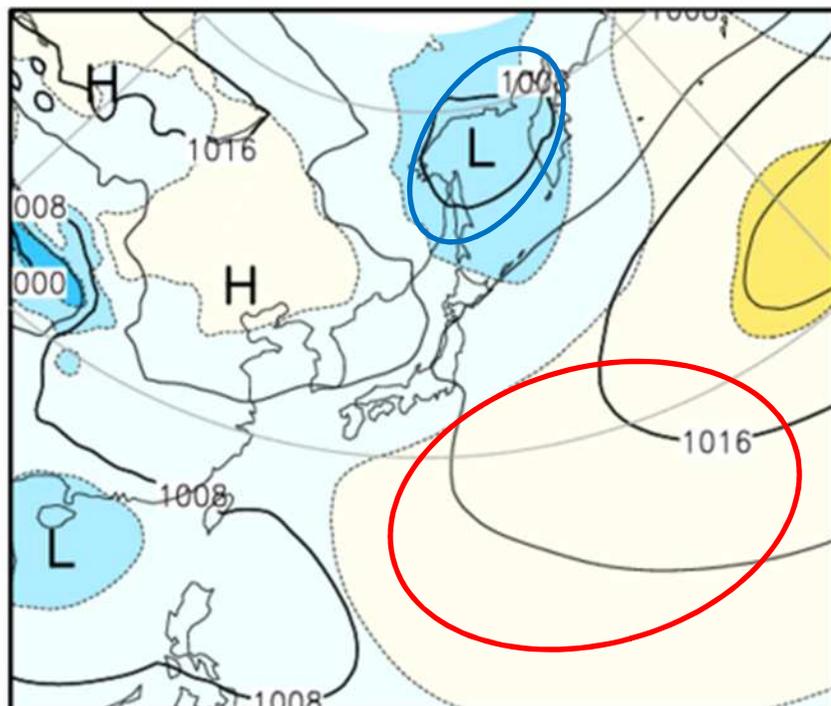
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:30:60	20:40:40	30:40:30	
	太平洋側		20:40:40	30:40:30	
東日本	日本海側	10:20:70	30:30:40	30:40:30	
	太平洋側		20:30:50	30:40:30	
西日本	日本海側	10:10:80	30:30:40	30:30:40	
	太平洋側		20:40:40	30:30:40	
沖縄・奄美		10:10:80	20:40:40	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:20:70	20:40:40	20:30:50
東日本	10:20:70	10:30:60	10:30:60
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:20:70	10:30:60	10:20:70

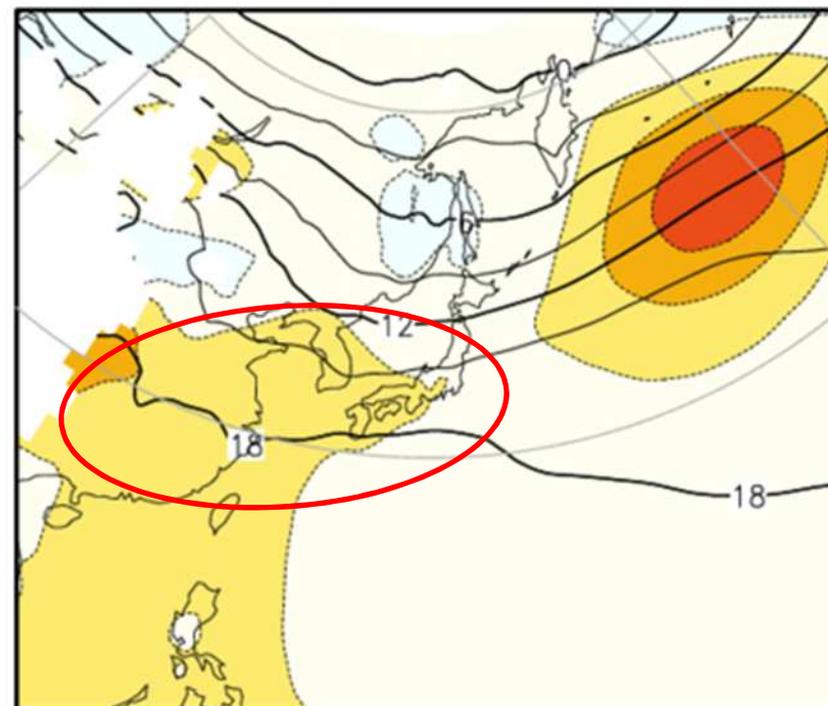
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高くなる所が多いでしょう。
- ・向こう1か月の降水量は、低気圧、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、東日本太平洋側で多く、北日本、西日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並か多いでしょう。
- ・向こう1か月の日照時間は、湿った空気の影響を受けやすいため、沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。

地上気圧(1か月)

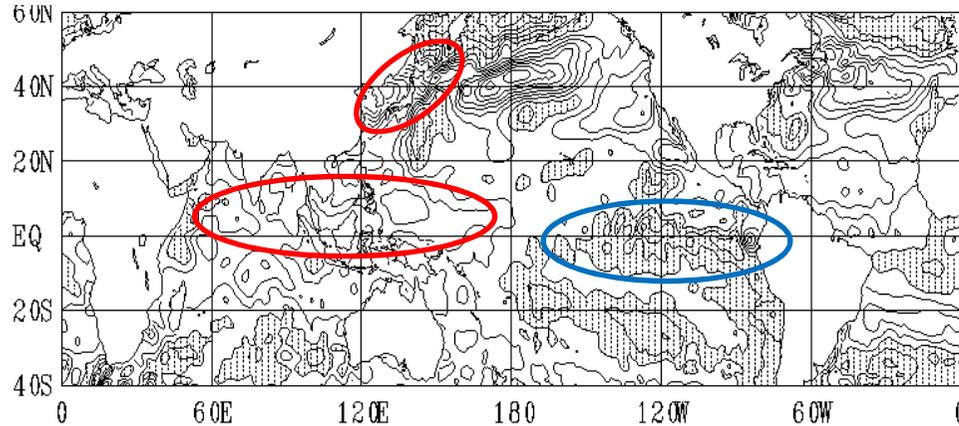


上空約1500mの気温(1か月)



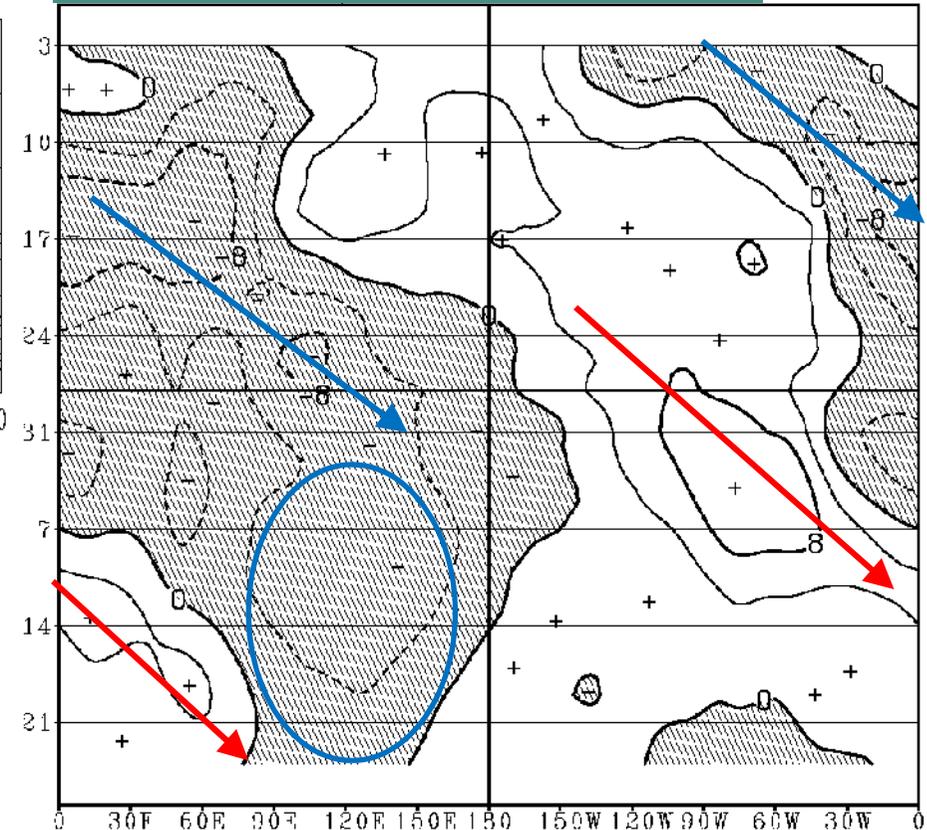
1か月平均の地上気圧(左図)は、太平洋高気圧が日本の南東を中心に強いでしょう。このため、日本付近は南から暖かく湿った空気が流れ込みやすく、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。また、オホーツク海には低気圧があり、北日本では低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、西日本を中心に全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

SST偏差



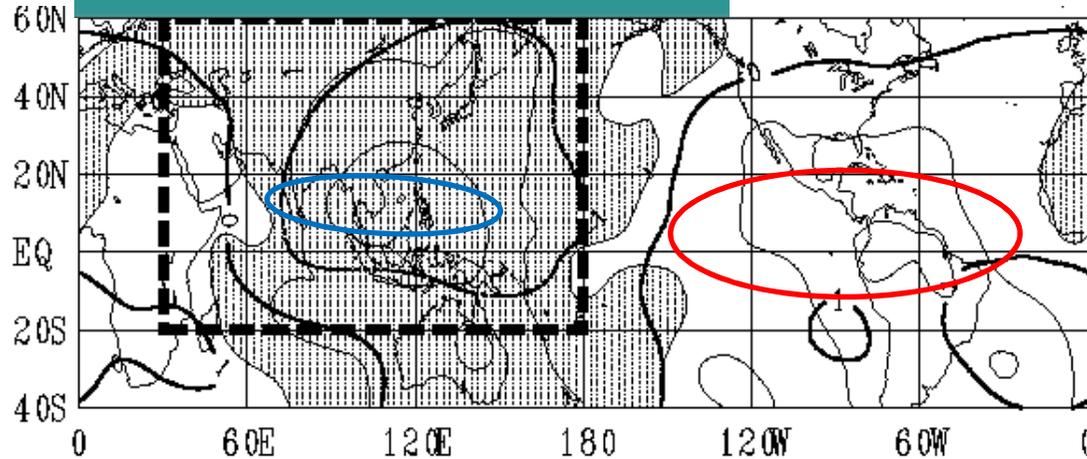
熱帯域では、インド洋から太平洋西部にかけて正偏差。東部太平洋赤道域では負偏差。これらはラニーニャ現象の特徴が現れ始めていることを示している。日本周辺海域で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



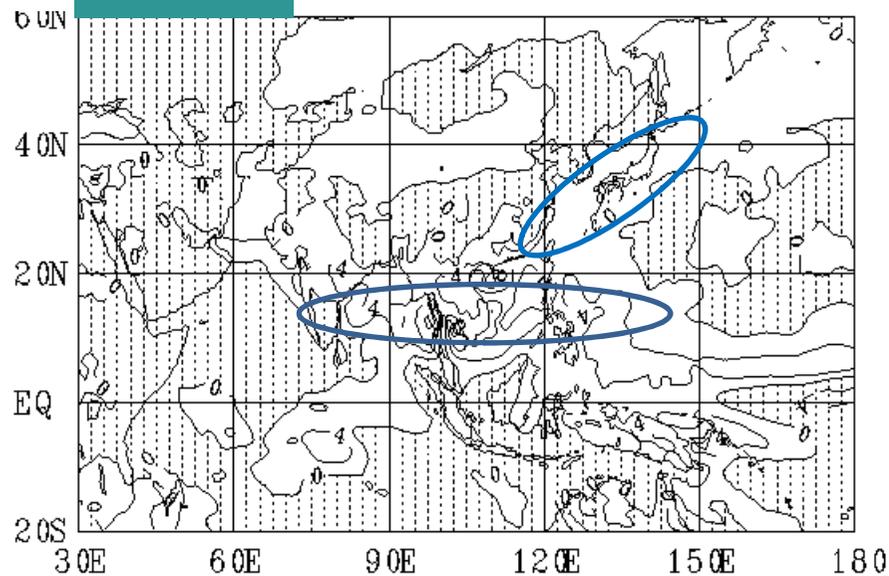
実況で対流活発域がインド洋からインドネシア付近にかけて東進、その後インド洋東部から西部太平洋にかけて活発な状態が持続。不活発域がアフリカからインド洋西部にかけて東進。

200hPa速度ポテンシャル



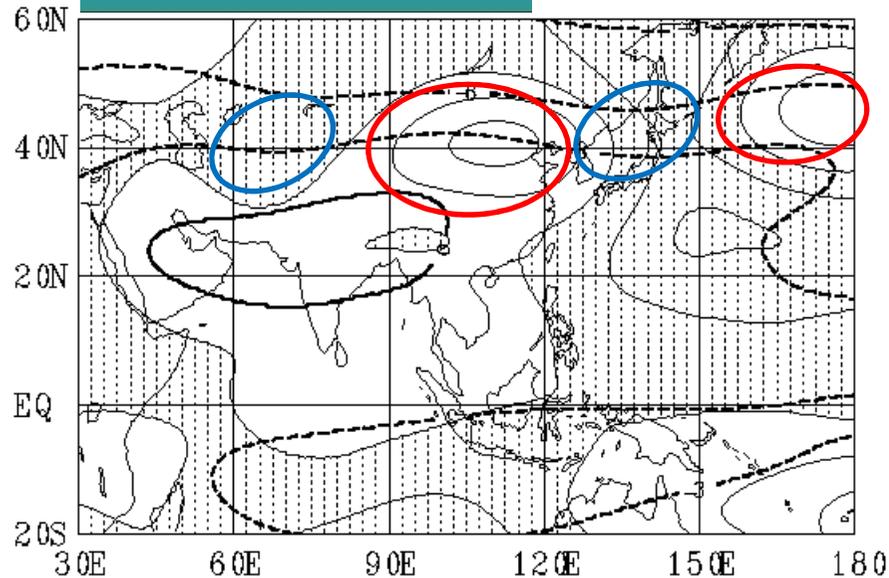
インド付近からフィリピン東方海上にかけて上層発散偏差。
東部太平洋からアメリカ大陸にかけて上層収束偏差。

降水量



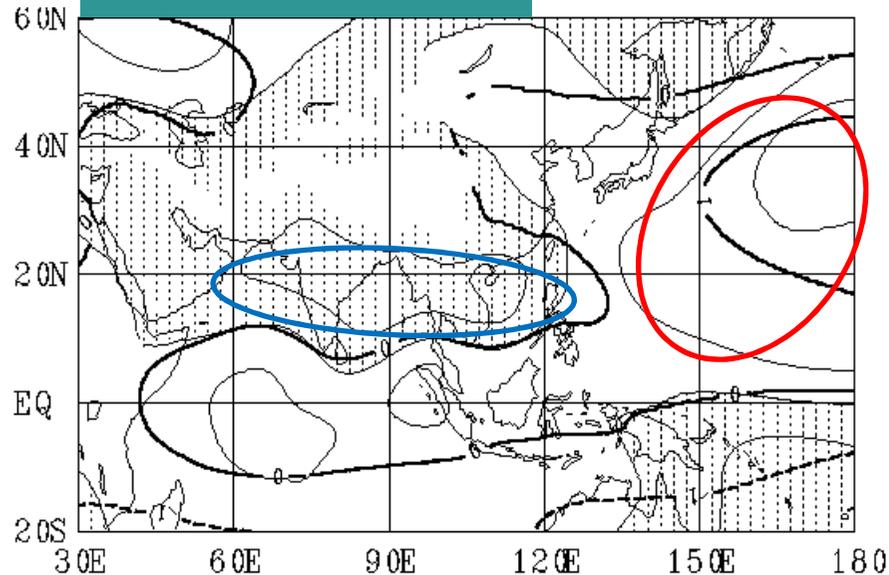
ベンガル湾付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差で、アジアモンスーン域の対流活動が活発なことを示している。北半球夏季の熱帯季節内振動と海面水温の影響を示唆。日本付近も多雨偏差。

200hPa流線関数



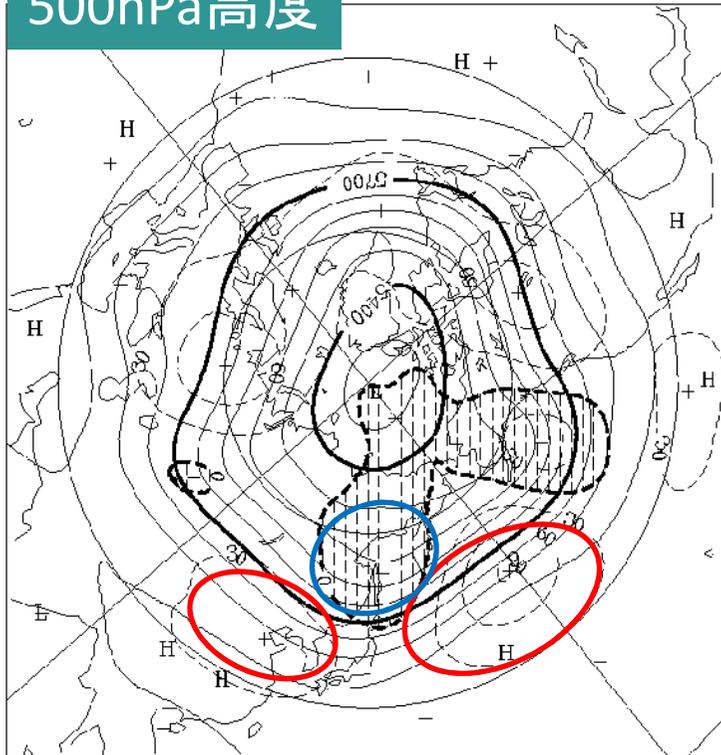
亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、モンゴル付近と千島の東で高気圧性循環偏差。一方、北日本付近に低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



アラビア海からフィリピン付近にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差。アジアモンスーン域の活発な対流活動の影響があるとともに、日本の東の高気圧性循環偏差には、上層の千島の東の高気圧性循環偏差の影響がある。

500hPa高度

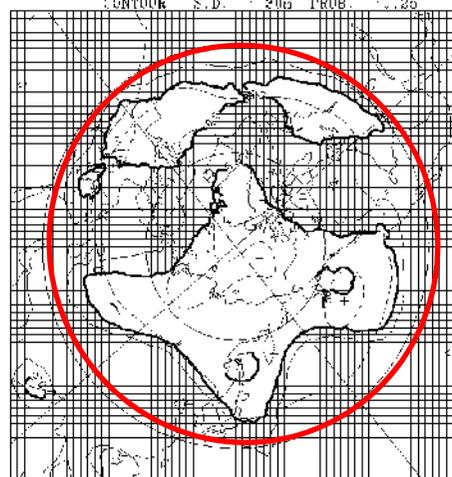
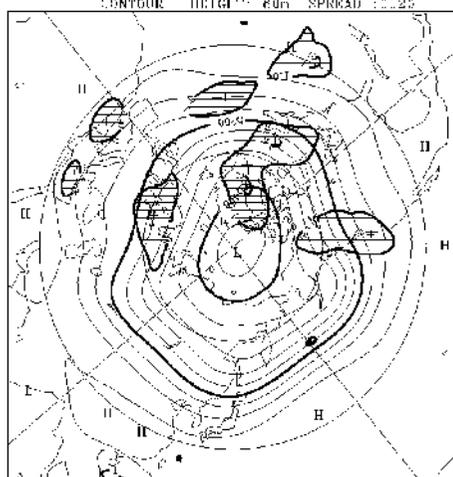


500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、東日本以南を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

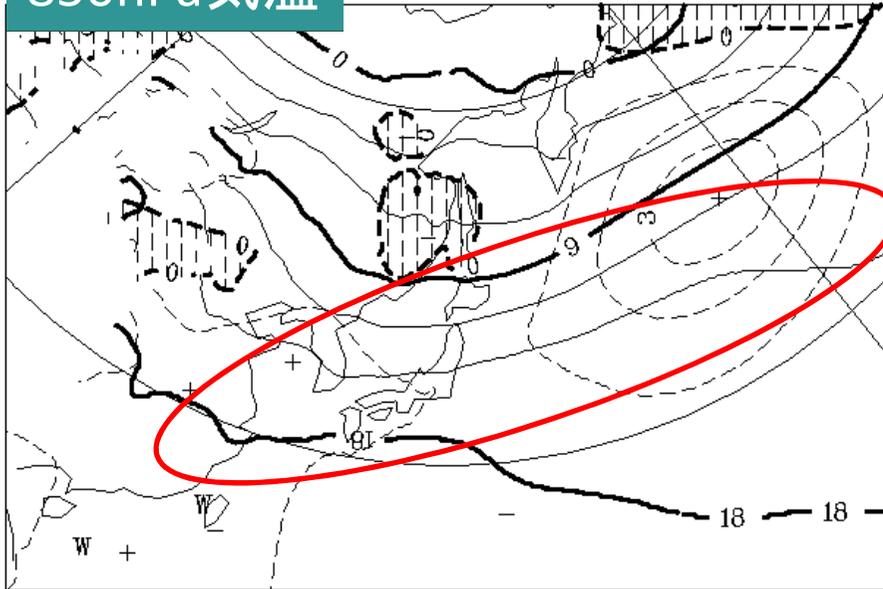
その中で、華北付近と日本のはるか東には特に強い正偏差域がある一方、オホーツク海付近はトラフで負偏差。北日本は、気温、天候ともにこのトラフの影響を受ける。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

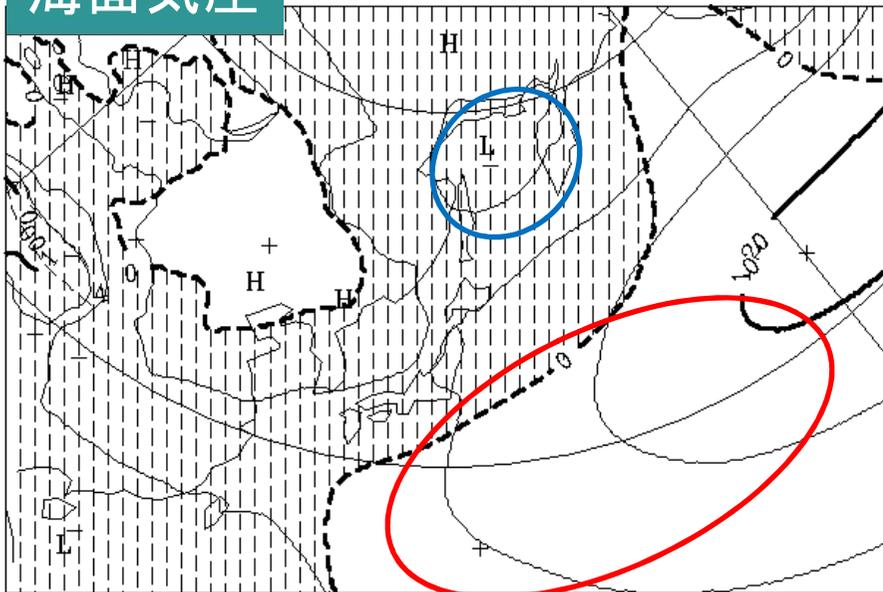


850hPa気温



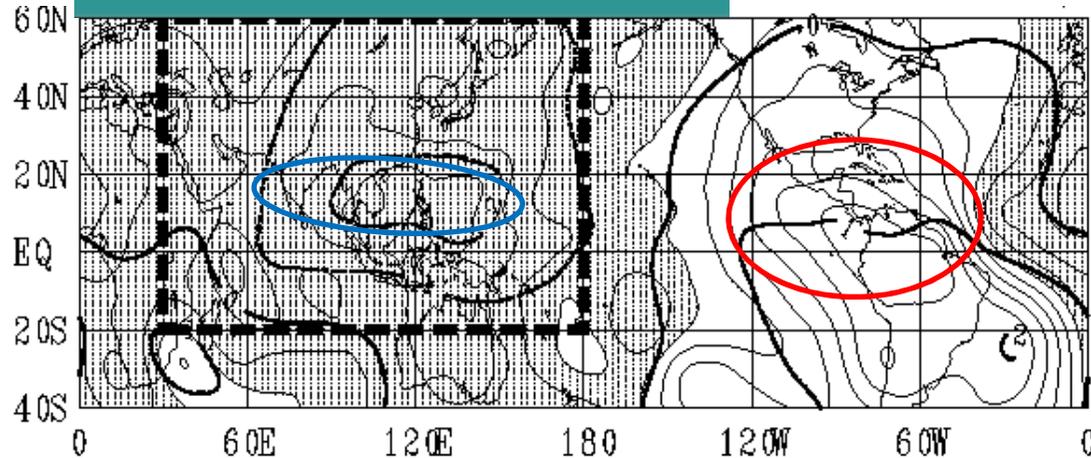
日本付近は上空の高温偏差に覆われる。日本付近の高温偏差の中心は西日本付近。

海面気圧



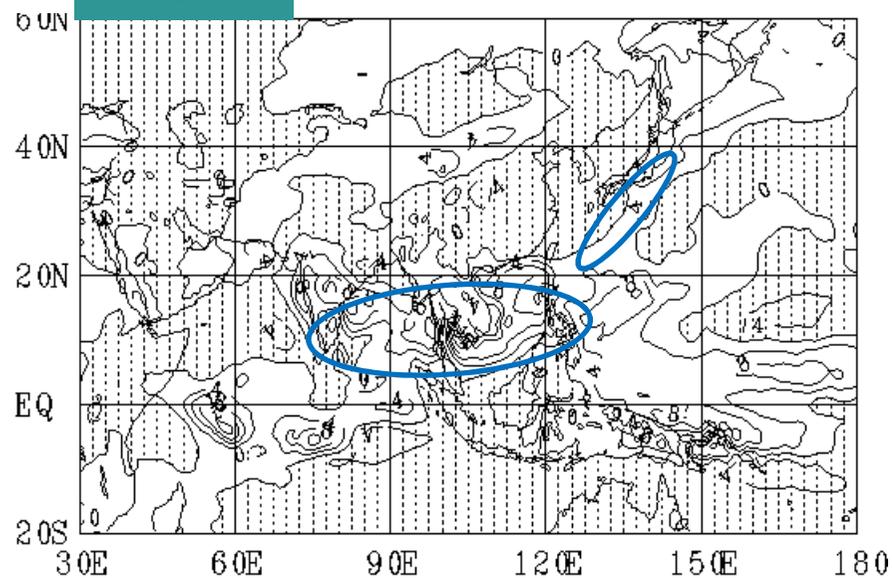
太平洋高気圧が日本の南東を中心に強いため、日本付近は南から暖かく湿った空気が流れ込みやすく、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期がある。また、オホーツク海には低気圧があり、北日本では低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



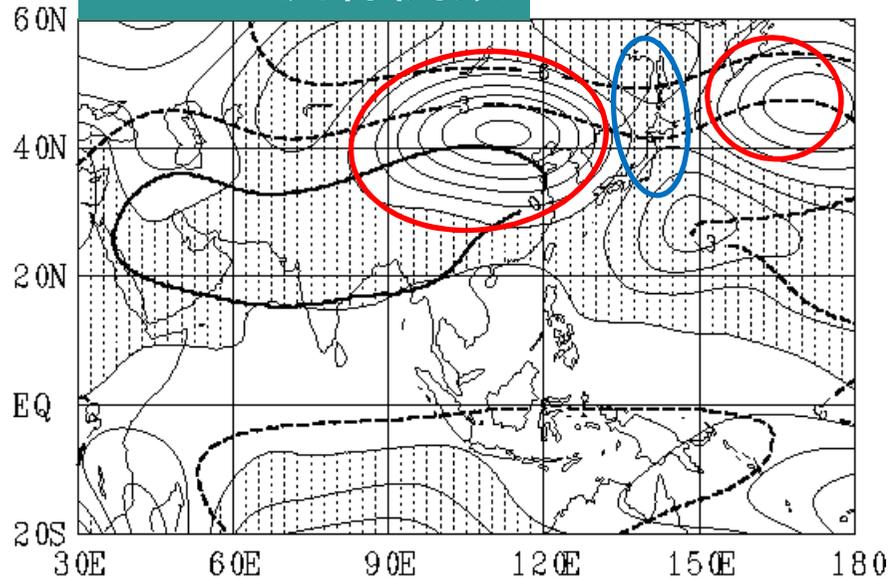
アメリカ大陸付近で上層収束偏差の一方、アラビア海からフィリピンの南東海上にかけてを中心に上層発散偏差。北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

降水量



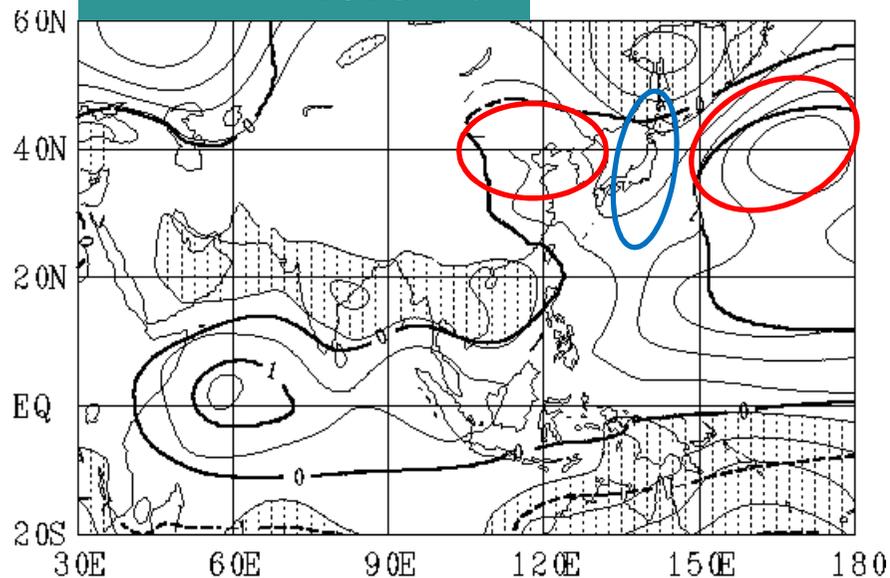
インド付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差。また、日本の南から東日本付近にかけて多雨偏差。台風第10号の影響を含む。

200hPa流線関数



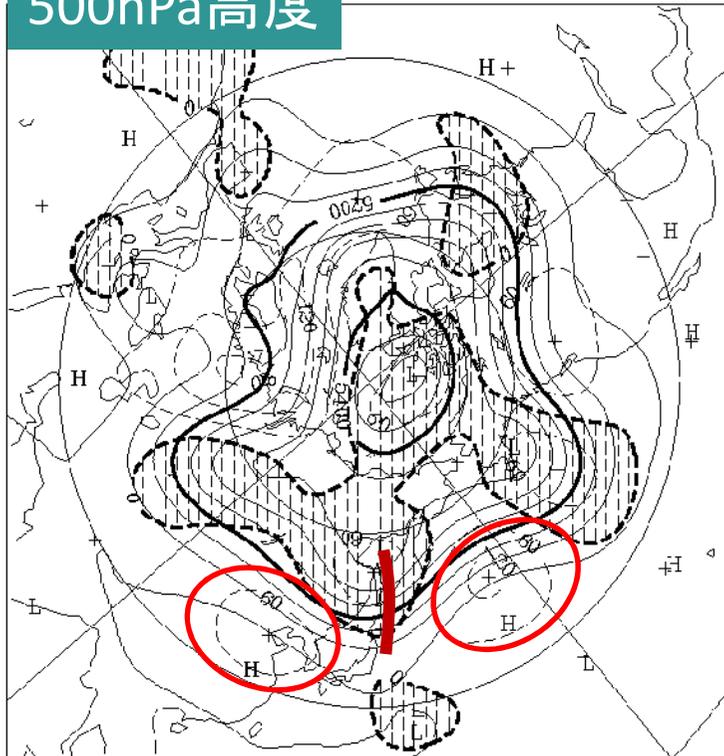
亜熱帯ジェット気流の蛇行が明瞭で、華北付近にリッジ、北日本付近にトラフ、日本のはるか東にリッジ。

850hPa流線関数



上層のトラフリッジに対応して華北付近と日本のはるか東は高気圧性循環偏差、日本付近は相対的な低気圧性循環偏差。

500hPa高度

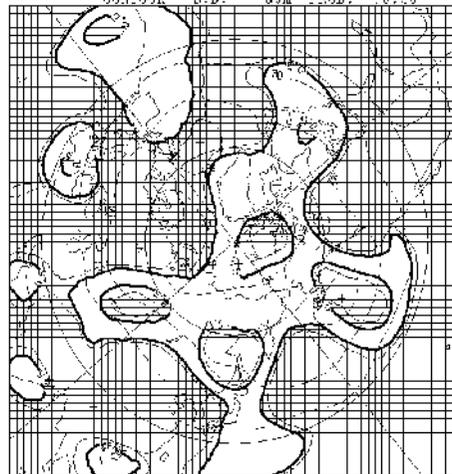
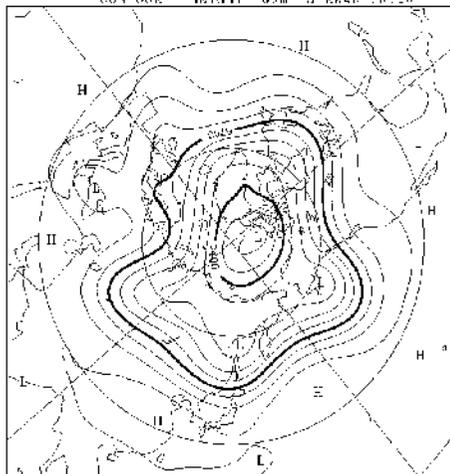


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

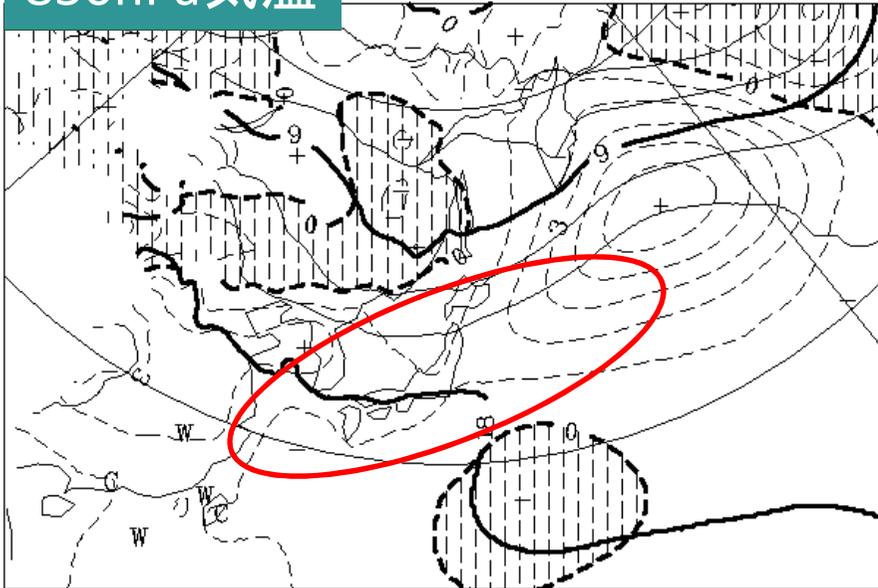
CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



500hPa高度では、日本付近は北海道を除き正偏差に覆われる。

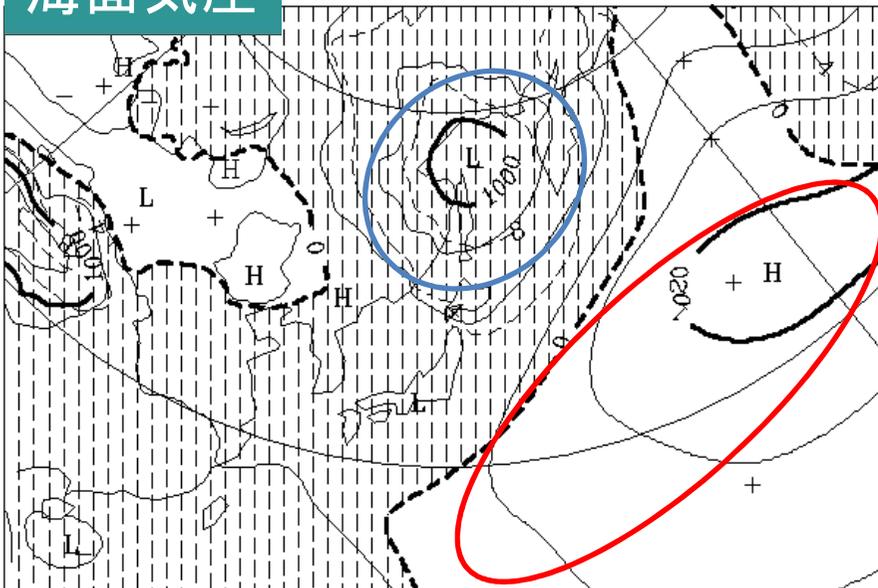
華北付近と日本のはるか東に強い正偏差域がある一方、オホーツク海付近にトラフがあって北・東日本に伸びる。

850hPa気温



日本付近は、正偏差域に覆われる。

海面気圧



太平洋高気圧が日本の東から南で強い。沖縄・奄美付近は、湿った空気の影響を受けやすい。

一方、上層のトラフに対応してオホーツク海付近に低気圧があり、北日本では低気圧や前線の影響を受ける時期がある。期間の始めには台風第10号の影響を受ける。

想定される天候

北・東日本では、天気は数日の周期で変わりますが、台風第10号、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

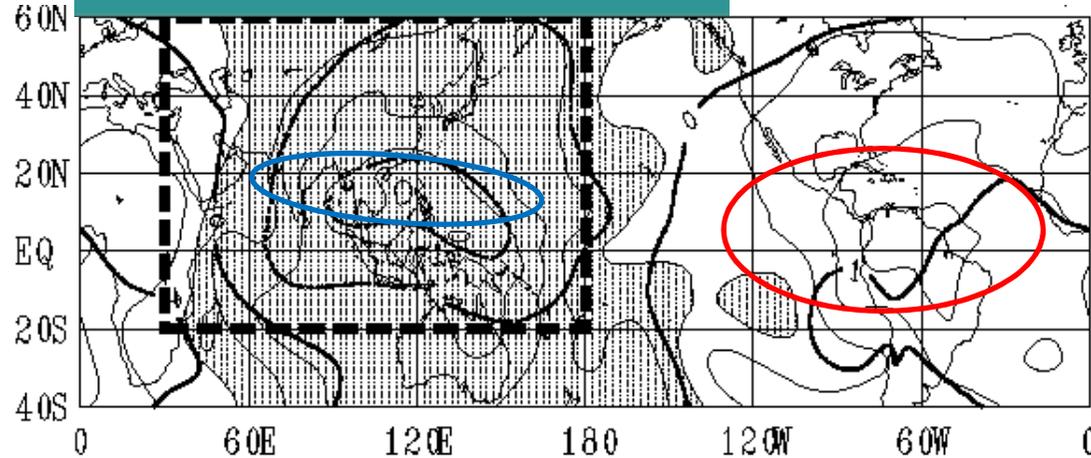
<気温>

・暖かい空気が流れ込みやすいため、全国的に気温が高く、気温がかなり高くなる所もある。

<天候>

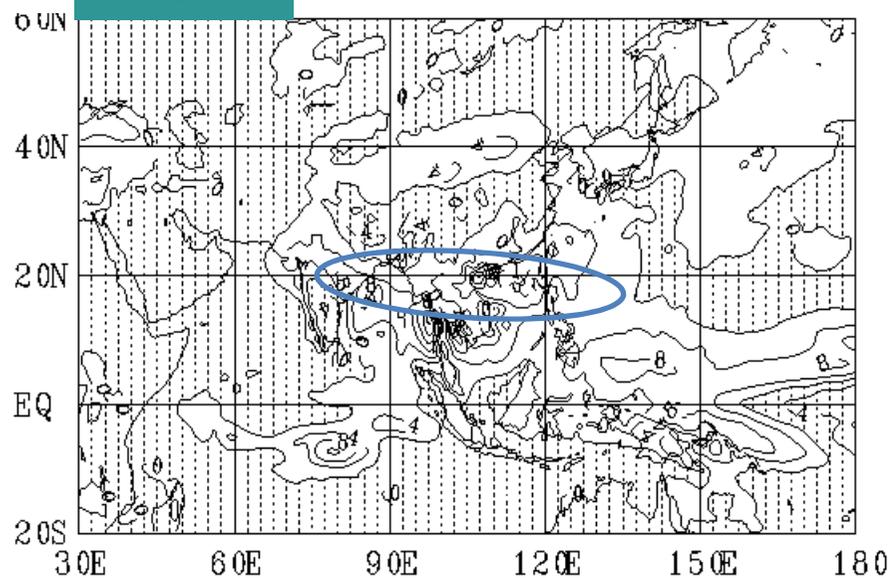
・台風第10号、低気圧や前線の影響を受けやすいため、東日本太平洋側は多雨で寡照傾向、北日本と東日本日本海側は多雨傾向寡照傾向。
・西日本は、期間始めの台風第10号の影響で太平洋側で多雨傾向、日本海側でやや多雨だが、その後は高気圧に覆われやすく並照。
・沖縄・奄美では、湿った空気の影響で、並雨寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



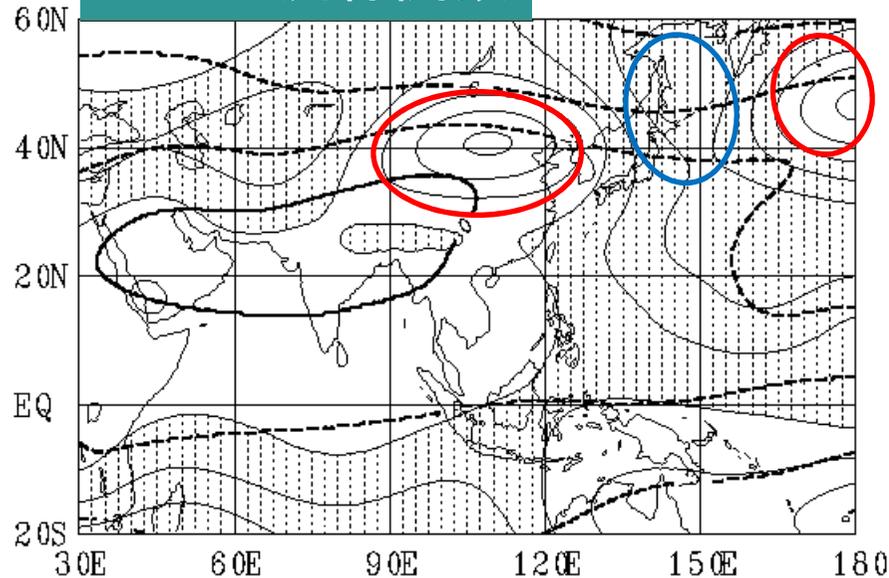
アメリカ大陸付近で上層収束偏差の一方、インド付近からフィリピンの南東海上にかけてを中心に上層発散偏差。北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

降水量



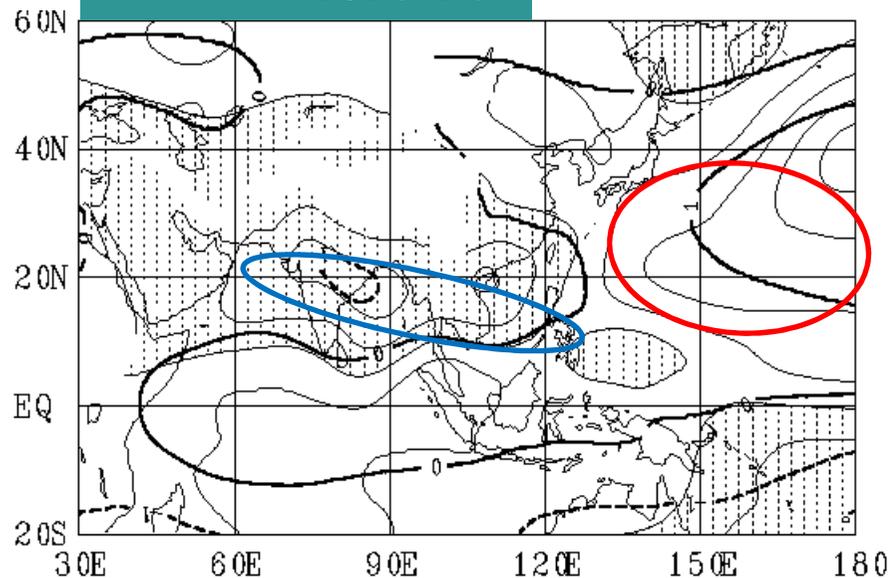
ベンガル湾付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



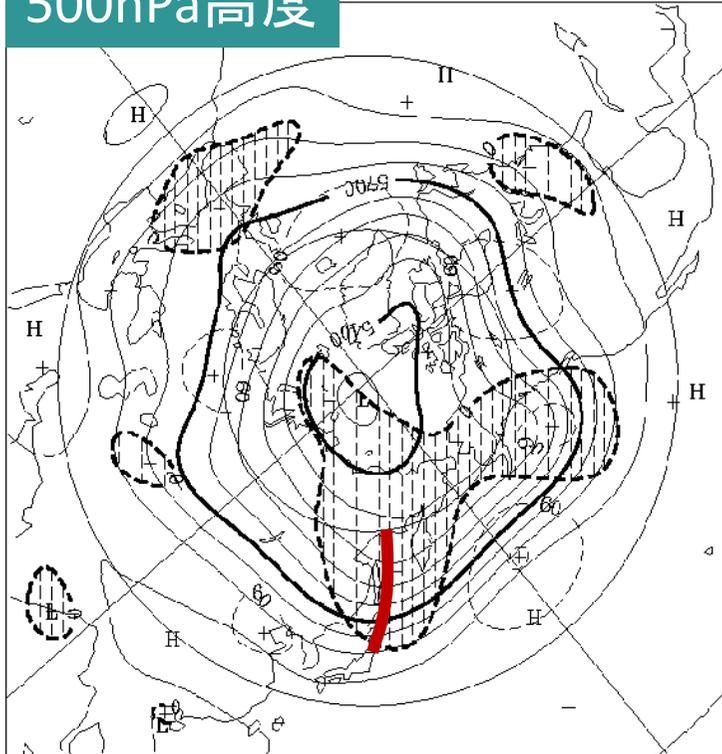
亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、華北付近とアリューシャンの南で高気圧性循環偏差、千島付近で低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



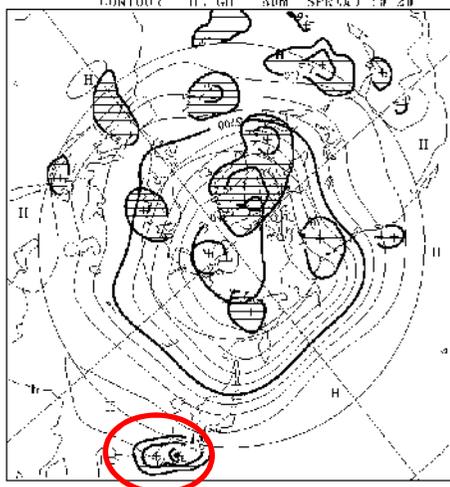
アラビア海から南シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差。アジアモンスーン域の活発な対流活動の影響がある。

500hPa高度

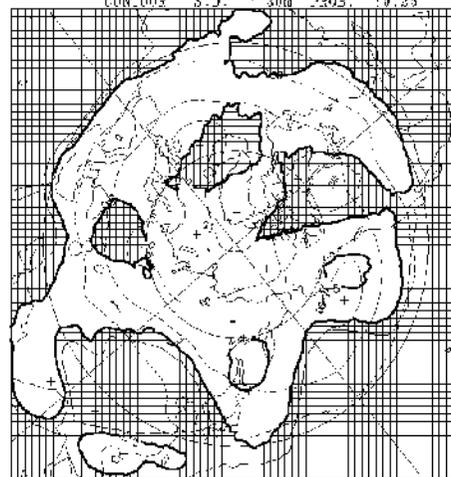


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



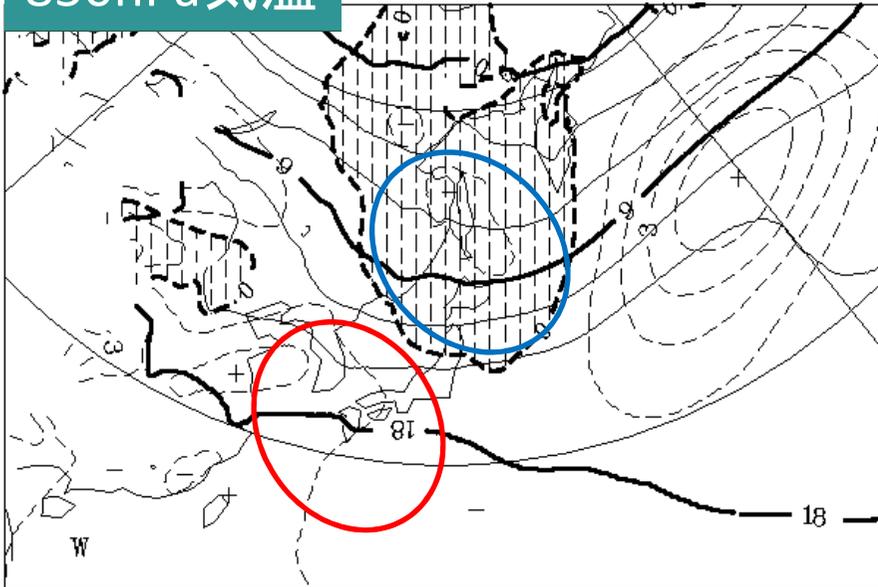
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20



CONTOUR S.D. 30% 2.00 0.25

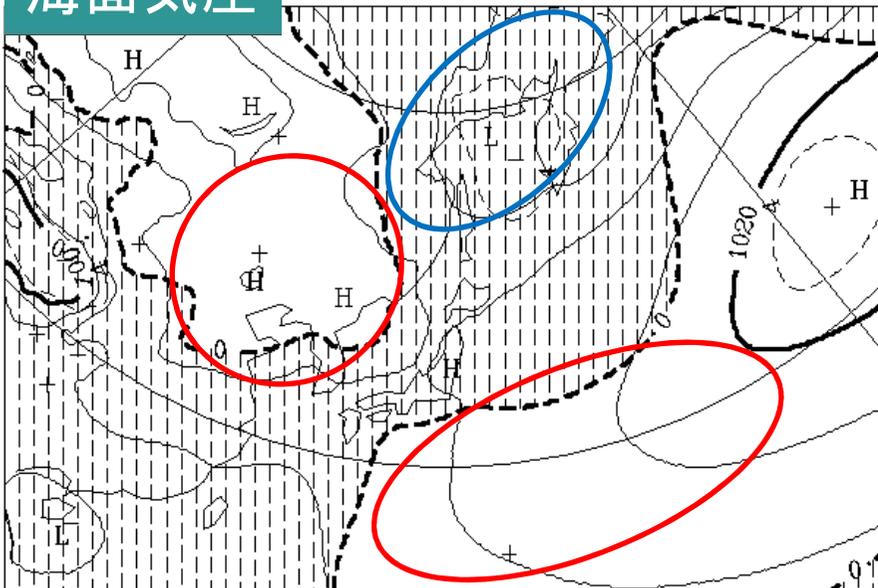
500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、東日本以南を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。一方、その中でオホーツク海付近にはトラフがあって、その影響で北海道は北から負偏差域に覆われる。沖縄付近にはスプレッドが大きい領域があり、熱帯じょう乱の予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



日本付近は、北日本は低温偏差、東・西日本と沖縄・奄美は高温偏差。

海面気圧



太平洋高気圧が日本の東から南で強く、東・西日本は太平洋高気圧に覆われやすく、沖縄・奄美には暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

また、オホーツク海付近に低気圧が、華北付近に高気圧があり、北日本には冷涼な空気が流れ込む時期がある。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、移動性高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

西日本太平洋側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

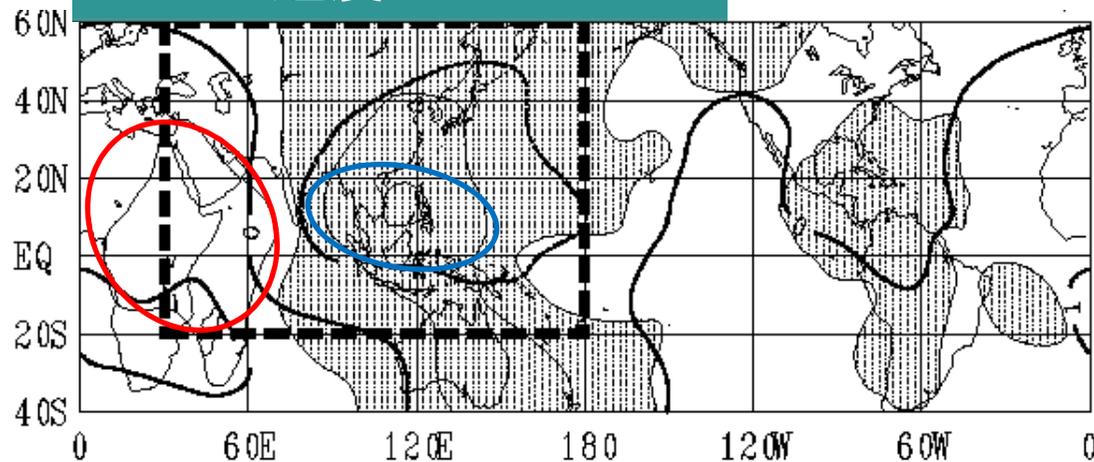
<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、東・西日本と沖縄・奄美では気温がかなり高くなる所がある。北日本は冷涼な空気が流れ込む時期があり、平年並か高い。

<天候>

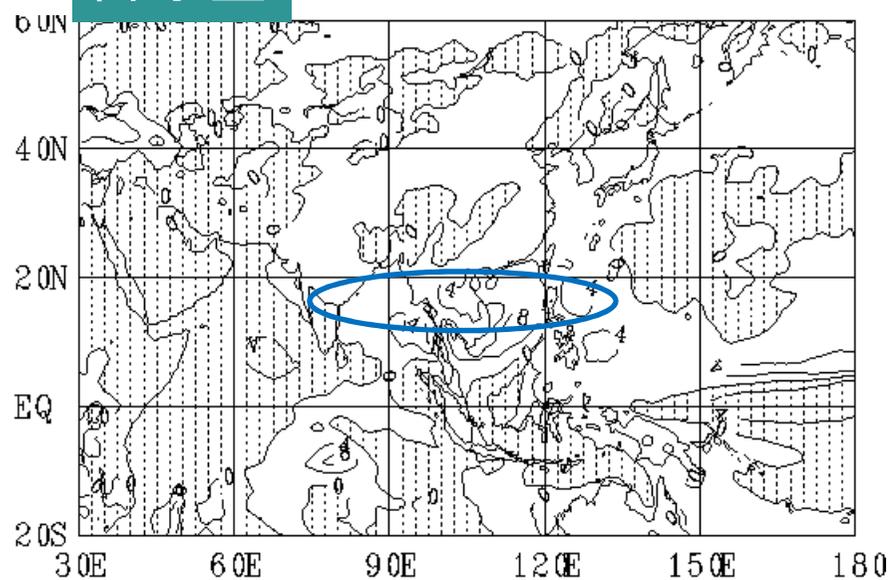
- ・北日本では、移動性高気圧に覆われやすいため、並雨で多照傾向。
- ・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、並雨で多照傾向。
- ・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、多雨寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



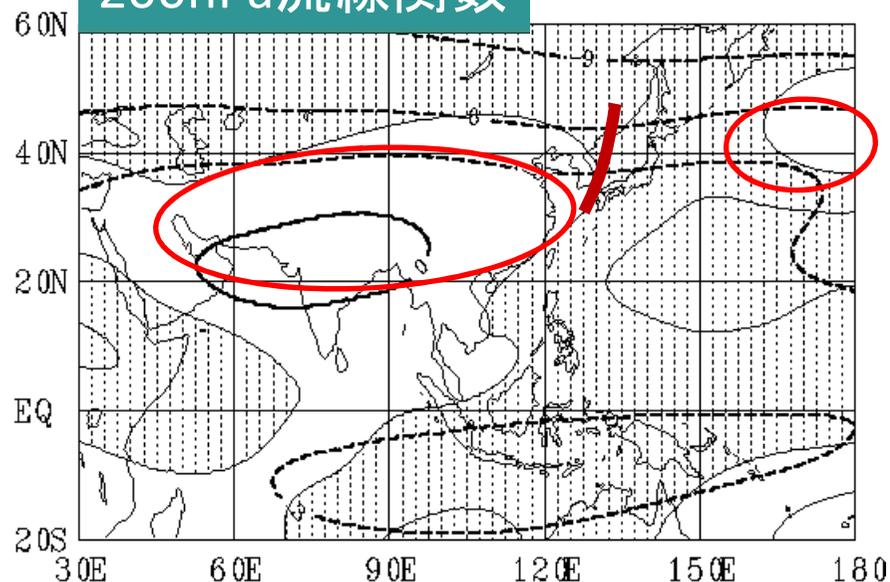
アフリカからインド洋西部にかけて上層収束偏差、ベンガル湾からフィリピンの東海上にかけてを中心に上層発散偏差。海面水温と北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

降水量



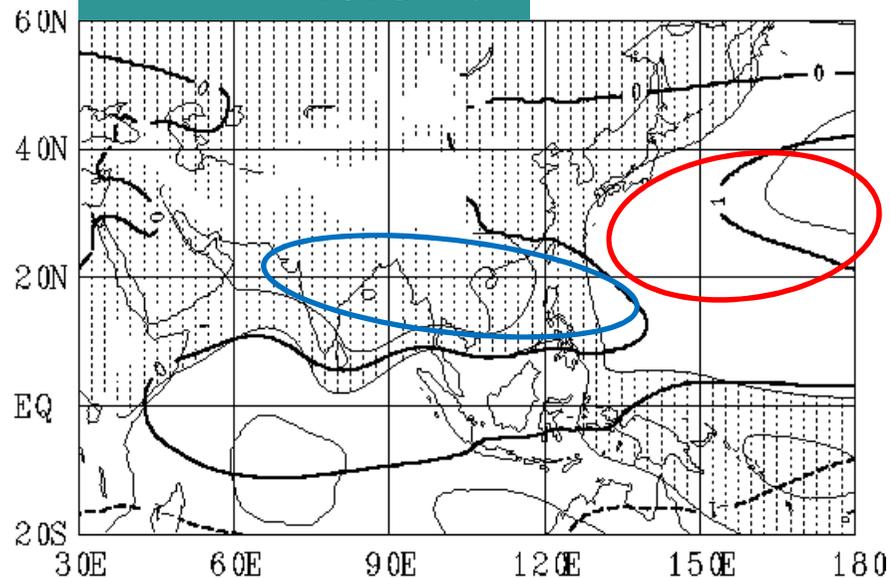
ベンガル湾からフィリピンの東方海上にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



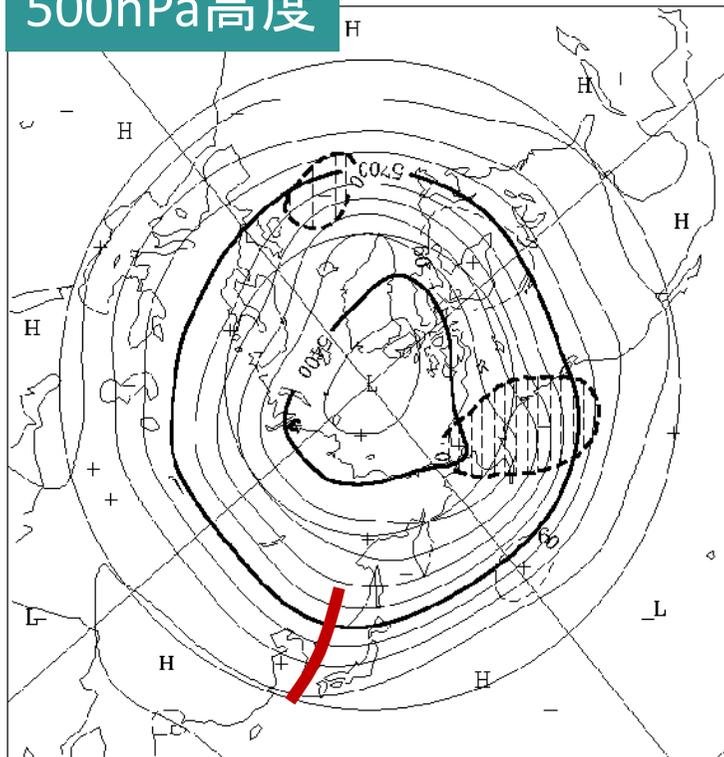
対流活動に対応してチベット高気圧の衰弱が弱く、アジア大陸南部で広く高気圧性循環偏差。その東の朝鮮半島付近にトラフ、日本のはるか東で高気圧性循環偏差。これらの影響で日本付近は西谷傾向。

850hPa流線関数



アラビア海からフィリピン東方海上にかけて低気圧性循環偏差、日本の南から東は高気圧性循環偏差。

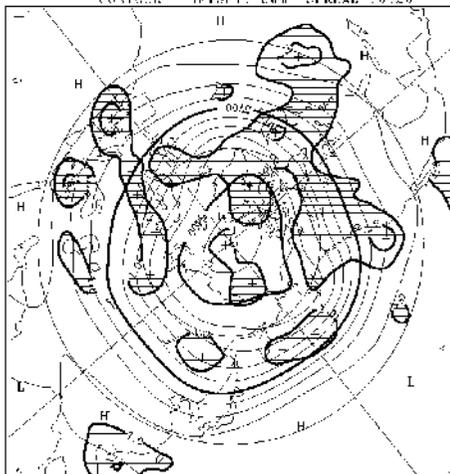
500hPa高度



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、本州以南付近を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。朝鮮半島付近にトラフがあって、日本付近は西谷傾向。

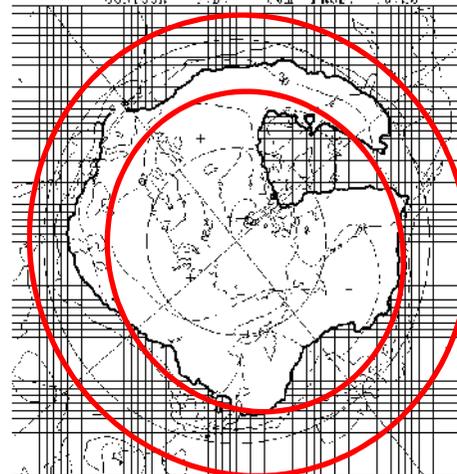
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

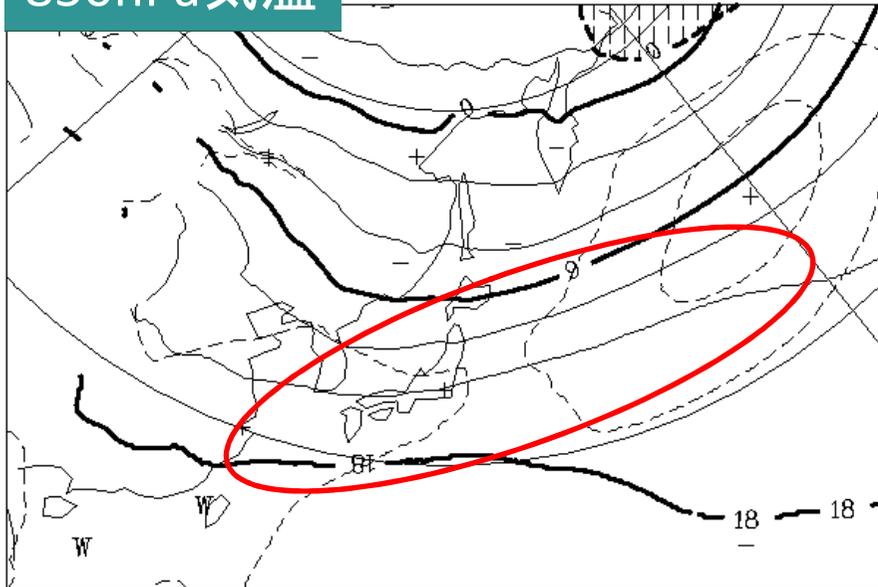


PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



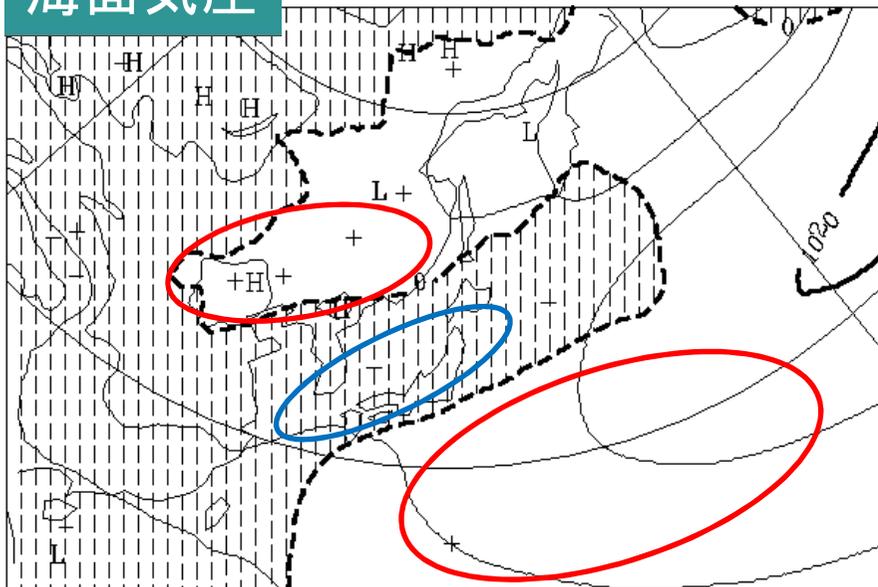
850hPa気温



日本付近は、高温偏差域に覆われる。

日本付近は暖かい空気に覆われやすい。高温偏差の中心は東・西日本と沖縄・奄美。

海面気圧



太平洋高気圧は日本の南で強い一方、中国大陸には高気圧がある。その間の日本付近は、負偏差で本州付近は前線帯となり、東日本太平洋側を中心に秋雨前線の影響を受けやすい時期がある。

想定される天候

北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

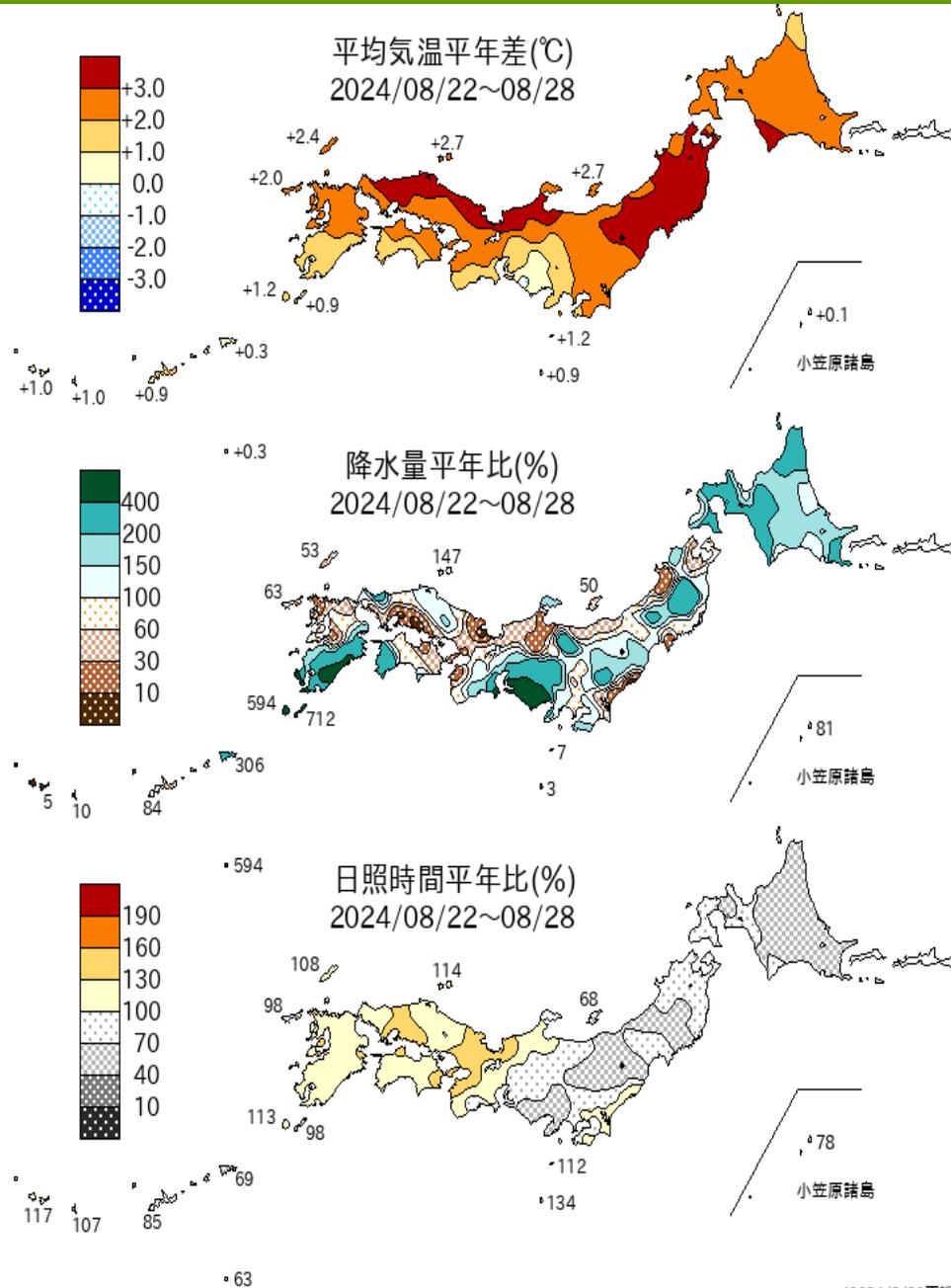
<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に気温が高くなる見込み。

<天候>

・秋雨前線の影響を受けやすい時期があるため、北・東日本太平洋側ではやや多雨やや寡照、北・東日本日本海側では並雨やや寡照。沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、やや多雨やや寡照、西日本ではやや多雨並照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(8月22日~8月28日)は、低気圧や前線の影響を受けやすかった北日本では曇りや雨の日が多くなりました。太平洋高気圧の縁を回り南から暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、東日本太平洋側を中心に局地的な大雨となった所がありました。西日本では期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、期間末には、台風第10号の影響で九州南部・奄美地方で荒れた天気となりました。

気温は、暖かい空気に覆われ、また、南から暖かい空気が流れ込んだことから、全国的に平年に比べ高く、東・西日本日本海側を中心に猛暑日となった所も多くなりました。